

授 業 計 画

No.1

授業科目	ビジネス講座		担当教員	吉田 稔	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	1

授業概要	このビジネス講座の目的は、ビジネスの基本的な知識、社会人としてのマナーなどを学ぶことです。また人財育成の課題である、問題力発見、提案力、発言力など仕事に必要な内容も学びます。具体的には8つの意識(顧客、品質、納期、時間、目標他、)を中心に個人またはチームで働くマインドを身に着けます。目標値として社会人に必要な能力を評価するビジネス検定3級(2級)全体合格率90%以上を目指します。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	0 %	他	30 %
教科書	ビジネス能力検定ジョブパス3級 公式テキスト			副教材および参考文献		プリント、過去問、用語問題	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ビジネスとコミュニケーションの基本①	受験申込記入。キャリアと仕事のアプローチ
第2回	ビジネスとコミュニケーションの基本②	仕事の基本となる8つの意識、コミュニケーションとビジネスマナーの基本
第3回	ビジネスとコミュニケーションの基本③	指示の受け方と報告、連絡、相談。話し方と聞き方のポイント
第4回	ビジネスとコミュニケーションの基本④	来客対応と訪問の基本マナー。会社関係の付き合い方
第5回	ビジネスとコミュニケーションの基本⑤	仕事への取り組み方
第6回	仕事の実践とビジネスツール①	ビジネス文書の基本と電話対応
第7回	仕事の実践とビジネスツール②	データの読み方、情報収集、会社を取り巻く環境と経済の基本
第8回	B検定模試試験①	B検定模試試験3級1回目
第9回	B検定模試試験②	B検定模試試験3級2回目
第10回	B検定試験解説	試験内容の解説
第11回	就職対策準備①	業界の職種と就職状況について
第12回	就職対策準備②	業界の職種と求人票の見方他
第13回	就職対策準備③	自己分析、自己PRについて
第14回	就職対策準備④	年金の説明(幕張年金事務所)
第15回	前期のまとめ	期末試験対策 前期学習範囲の総復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築計画各論		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は2級建築士試験学科 I 計画の建築計画各論の分野、前半部分を学習する。具体的には建築計画一般、各部計画、工法・材料・生産、住宅、及び事務所に関して、特にその分類や特徴を学習する。建築設計製図、及び建築士実技対策の基本知識になる領域であり関連付けた授業構成に配慮してある。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	60 %	課題	20 %	他	20 %
教科書	専門士課程建築計画			副教材および参考文献		なし	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンスとオリエンテーション	シラバスの説明と2級建築士学科試験に関して
第2回	建築一般-1	建築計画のあらまし、計画の進め方、構造計画
第3回	建築一般-2	設備計画、避難・防災計画、高齢者・障害者の為の計画
第4回	各部の計画-1	高さに関する寸法、各室の所要面積、通行空間の寸法
第5回	各部の計画-2	バリアフリーデザインの寸法
第6回	各部の計画-3	モジュールの詳細
第7回	工法・材料	主体構造、建築材料他
第8回	材料・生産	開口部、建築生産 他
第9回	住宅-1	独立住宅(配置、平面、プランタイプ等)
第10回	住宅-2	独立住宅(各室、高齢者・障害者の住宅、二世帯住宅)
第11回	集合住宅-1	集合住宅(分類、住棟タイプ等)
第12回	集合住宅-2	集合住宅(配置、住戸計画、共用部分等)
第13回	オフィス建築-1	事務所の種類、貸し事務所、平面計画と断面計画
第14回	オフィス建築-2	事務室の計画、設備計画等
第15回	前期期末試験対策	期末試験の範囲確認、期末試験の過去問題演習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	福祉住環境		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、二級建築士試験学科 I 計画の建築計画各論の分野にあたる。わが国の少子高齢化社会において近年益々その重要性が注目されており、建築の分野においても今後活躍の場が益々期待されている分野である。特に高齢者・障害者の介護に関する基本的な知識と技術を重点的に学ぶ。その上で福祉住環境コーディネーター検定試験3級合格レベルを到達目標とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	60 %	課題	20 %	他	20 %
教科書	福祉住環境コーディネーター3級短期合格テキスト(日本能率マネジメントセンター)		副教材および参考文献		福祉住環境コーディネーター3級検定試験過去問題集		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	オリエンテーションとガイダンス	シラバスの説明と検定試験に関して、少子高齢化社会の現状と課題
第2回	暮らしやすい生活環境を目指して①	【1】人口減少社会から見た社会構造の変化
第3回	暮らしやすい生活環境を目指して②	【2】高齢者への施策と現状と課題
第4回	暮らしやすい生活環境を目指して③	エイジングインプレイス・エイジレス社会・ユニバーサルデザイン
第5回	暮らしやすい生活環境を目指して④	日本の住環境の問題点と福祉住環境コーディネーターの役割
第6回	健康と自立を目指して①	老化のとらえ方、老年学、WAIS尺度得点、日常生活動作(ADL)
第7回	健康と自立を目指して②	高齢者の健康に必要な食事と運動
第8回	健康と自立を目指して③	高齢者の健康に欠かせないヘルスプロモーション
第9回	バリアフリーとユニバーサルデザイン①	バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方、我が国のユニバーサルデザイン
第10回	バリアフリーとユニバーサルデザイン②	生活の問題点と用具、生活を支えるさまざまな用具①(共用品・福祉用具)
第11回	バリアフリーとユニバーサルデザイン③	生活を支えるさまざまな用具②(福祉用具)
第12回	バリアフリーとユニバーサルデザイン④	生活を支えるさまざまな用具③(コミュニケーション支援用具・自助具)
第13回	安全・安心・快適な住まい①	住まいの整備の為の基本技術(段差・手すり家具・収納)
第14回	福祉用具(入浴)、自助具	入浴用いす・シャワー用車いす・コミュニケーション支援用具・自助具
第15回	前期期末試験対策	期末試験の範囲確認、期末試験の過去問題演習
第16回	期末試験	期末試験の範囲、対策、及び予想

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築設備		担当教員	内田 浩	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	これまでに慣れ親しんできた建物内の各種設備。この授業ではこれらを設計する側の視点で見つめなおし、人が快適、安全に建物を使用するために重要な要素となる建築設備設計の基礎を学びます。後続の詳細講義となる建築設備Ⅱに先行し、建築設備の全体像をつかむことができるよう学習します。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	図説 やさしい建築設備			副教材および参考文献		オリジナルプリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス: 建築と設備、その歴史	範囲の広い建築設備学習のアプローチ
第2回	給排水・衛生設備1	給排水・衛生設備の概要、給水設備について
第3回	給排水・衛生設備2	給湯の科学、給湯方式と給湯量
第4回	給排水・衛生設備3	給湯設備まとめ、排水の分類と系統
第5回	給排水・衛生設備4	通気と排水設備
第6回	給排水・衛生設備5	排水設備のまとめ、ガス設備、衛生器具設備
第7回	空気調和・換気設備1	空気調和の目的と設備の概要
第8回	空気調和・換気設備2	空気調和の科学
第9回	空気調和・換気設備3	空気調和と熱源
第10回	空気調和・換気設備4	換気の目的と換気システム
第11回	電気設備1	電気についての復習と電気設備の概要
第12回	電気設備2	照明設備、通信設備
第13回	防災設備	防災設備の役割
第14回	省エネルギー	省エネルギーの考え方
第15回	まとめと期末試験の準備	建築設備全体をもう一度おさらい
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築法規 I		担当教員	湯浅 誠	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は2級建築士学科試験の1科目として、また建築物を計画する上で建築法規の知識が必要ということを理解する。まずは法令集の引き方や条文に慣れ、建築法規に出てくる基本的な項目がどのような内容なのか概要を理解する。特に建築基準法の単体規定の部分を学習する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	図説 やさしい建築法規 建築関係法令集			副教材および 参考文献		オリジナルプリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス・法規の役割等	学習内容、日程、評価、二級建築士概要(法規の構成)
第2回	法令集の作成 I	インデックスの貼り方
第3回	法令集の作成 II	法令集アンダーラインの引き方
第4回	基本用語の理解	建築物、特殊建築物、居室、建築、敷地、延焼等
第5回	面積の算定 I	敷地面積、建築面積
第6回	面積の算定 II	建築面積、床面積、延べ面積
第7回	高さの算定	地盤面、建築物の高さ、階数
第8回	面積、高さの算定	敷地、建築面積、床面積、延べ面積、高さの算定問題
第9回	各種手続き	確認申請、届出
第10回	各種手続き	検査、手続きのフローチャート
第11回	一般構造規定 I	居室の採光
第12回	一般構造規定 II	居室の換気、シックハウス
第13回	一般構造規定 III	居室の天井高、教室の床高、地下の居室
第14回	一般構造規定 IV	階段の寸法、踊り場、手摺、傾斜路等
第15回	総復習	期末試験対策 振り返り
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	構造力学 I		担当教員	亀田 無限	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は構造力学の基礎を学ぶ。建築物を構成する柱や梁に作用する荷重によって、建物の支点到働く反力を理解し、反力計算が解けるようになることを目的とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	10 %	他	20 %
教科書	わかる！建築構造力学 オーム社			副教材および参考文献		配布プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、オリエンテーション	構造力学について
第2回	力について	力とは、モーメントとは
第3回	力の合成と分解(1)	力の合成と分解
第4回	力の合成と分解(2)	分布荷重とバリニオンの定理
第5回	力の合成と分解(3)	復習
第6回	力のつり合い	力のつりあい条件式、偶力のモーメント
第7回	支点、節点、力のつりあい方程式	三種類の支点、反力数
第8回	反力計算(1)	片持ち梁の反力を求める
第9回	反力計算(2)	等分布荷重が作用する片持ち梁の反力を求める
第10回	反力計算(3)	単純梁の反力を求める
第11回	反力計算(4)	いろいろな荷重が作用する梁の反力を求める-1
第12回	反力計算(5)	いろいろな荷重が作用する梁の反力を求める-2
第13回	反力計算(6)	反力計算の復習
第14回	反力計算(7)	力の合成、分解、反力計算、テスト対策
第15回	総復習	期末テスト対策
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築一般構造 I		担当教員	川名 和雄	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	講義	単位数	4

授業概要	枠組壁工法、各部の下地、仕上げから始める。鉄筋コンクリート構造では建築材料の復習を含めコンクリート、鉄筋の特徴、そして鉄筋コンクリート造としての特徴について学ぶ。鉄骨構造では、鋼材の種類、特徴をはじめ各構造形式について触れていく。鉄筋コンクリート、鉄骨造の基本を学習し、最終的には2級建築士の学科Ⅲ「建築構造」の「一般構造」の基礎部分を理解するレベルを目指す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	やさしい建築一般構造			副教材および参考文献		参考画像、プリント類	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、枠組壁工法、下地と仕上げ	枠組壁工法の特徴、各部の下地、仕上げについて
第2回	鉄筋コンクリート造1	コンクリートの特徴1
第3回	鉄筋コンクリート造2	コンクリートの特徴2
第4回	鉄筋コンクリート造3	コンクリートの特徴3、鉄筋コンクリートの基礎1
第5回	鉄筋コンクリート造4	コンクリートの特徴3、鉄筋コンクリートの基礎2
第6回	鉄筋コンクリート造5	鉄筋コンクリートの構造形式1
第7回	鉄筋コンクリート造6	鉄筋コンクリートの構造形式2
第8回	鉄筋コンクリート造7	鉄筋の配筋計画1
第9回	鉄筋コンクリート造8	鉄筋の配筋計画2
第10回	鉄筋コンクリート造9	各部の構造(梁)
第11回	鉄筋コンクリート造10	各部の構造(柱)
第12回	鉄筋コンクリート造11	各部の構造(スラブ)
第13回	鉄筋コンクリート造12	各部の構造(耐力壁)
第14回	鉄筋コンクリート造13	各部の構造(階段)
第15回	鉄筋コンクリート造14	壁式鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート構造まとめ1
第16回	鉄筋コンクリート造15	壁式鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート構造まとめ2

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	鉄骨造1	鋼材の特徴、形状1
第18回	鉄骨造2	鋼材の特徴、形状2
第19回	鉄骨造3	鋼材の特徴、形状3
第20回	鉄骨造4	鉄骨造の特徴、構造形式1
第21回	鉄骨造5	鉄骨造の特徴、構造形式2
第22回	鉄骨造6	鉄骨構造①接合、部材の設計1
第23回	鉄骨造7	鉄骨構造①接合、部材の設計2
第24回	鉄骨造8	鉄骨構造①接合、部材の設計3
第25回	鉄骨造9	鉄骨構造②各部の構造(梁、柱、筋交い)
第26回	鉄骨造10	鉄骨構造③各部の構造(柱脚、床版、階段、耐火被覆)
第27回	鉄骨造11	鉄骨構造③各部の構造(柱脚、床版、階段、耐火被覆)
第28回	その他の構造1	鉄骨鉄筋構造
第29回	その他の構造2	補強コンクリートブロック造
第30回	その他の構造3	プレストレストコンクリート造
第31回	総復習	総復習、期末試験の説明
第32回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築施工		担当教員	加藤 貴久	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、2級建築士・2級建築施工管理技術検定合格を目標とし、そのための基礎知識の習得をねらいとする。建築施工 I では、工事契約から着工までの準備及び、仮設工事・土工事・地業工事までの主な現場作業の流れ・工法等を学習する。また夏休み期間中に、工事現場の見学レポートの課題を課す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	75 %	課題	25 %	他	0 %
教科書	図説 やさしい建築施工			副教材および参考文献		2級建築士過去問題ファイル スライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	建築施工とは	授業概要説明 建築に携わる人々 建築施工の仕事
第2回	建築工事の流れ 工事契約	現場代理人 工事請負契約
第3回	工事契約 設計図書	設計図書の種類と優先順位
第4回	積算	工事費の構成 積算用語
第5回	施工計画	現地調査 工程計画 工程表
第6回	施工管理	品質管理 工程管理 安全管理 原価管理
第7回	施工管理	材料管理 環境管理 各種届出
第8回	地盤調査	地盤調査の目的 地盤調査の種類
第9回	測量	直接仮設工事の測量 各種測量
第10回	仮設工事	仮設工事の種類 各種仮設
第11回	仮設工事	足場の種類 作業床 災害防止措置
第12回	土工事	根切りと山留め
第13回	土工事	山留め支保工 排水工法
第14回	基礎事業工事	地業工事 既製コンクリート杭
第15回	基礎事業工事	場所打ちコンクリート杭 地盤改良
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	インテリア概論		担当教員	亀田 無限	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	<p>この科目では、建築を学ぶ学生にとってインテリアデザインの必要な基礎知識を学習する。設計の最終段階に考えられると思われがちな内部空間の計画は、実は建築設計の初期段階から始まります。その建物を利用する人々が、仕事や日々の生活、趣味の時間などを、安全かつ快適に過ごし、その結果いかに満足し得るかは、インテリアデザインの良し悪しに大きく左右され、建築全体の良否にも関わってきます。そのインテリアデザインのエレメントを一つ一つ学習していきます。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	建築のインテリアデザイン			副教材および参考文献		オリジナルプリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス: 建築とインテリア	インテリアデザイン学習のアプローチ
第2回	インテリア計画と設計 第1~2章	インテリアデザインの考え方、寸法・行為・心理
第3回	インテリア計画と設計 第3章	「床」の役割、構造と種類
第4回	インテリア計画と設計 第4章	「屋根・架構」の役割、構造と種類
第5回	インテリア計画と設計 第5章	「壁」の役割、構造と種類
第6回	インテリア計画と設計 第6章	「天井」の役割、構造と種類
第7回	インテリア計画と設計 第7章	「出入口」の役割、構造と種類、建具について
第8回	インテリア計画と設計 第8章	「窓」の役割、構造と種類、ガラスの種類について
第9回	インテリア計画と設計 第9章	「屋内環境」の調整、「設備」の役割と基礎知識
第10回	インテリア計画と設計 第10章	「あかり」の役割と種類、基礎知識、照明計画
第11回	インテリア計画と設計 第11章	「ファブリックス(カーテン・じゅうたん)」の基礎知識
第12回	インテリア計画と設計 第12, 13章	「家具」の基礎知識、「座具」の事例
第13回	インテリア計画と設計 第14, 15章	「かたち」の要素・「素材」の効果、特徴
第14回	インテリア計画と設計 第16章	「色彩」の効果と基礎知識
第15回	総復習	期末試験対策 学習範囲のおさらい
第16回	期末テスト	期末テストの実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築設計製図		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	この科目は、建物を造る上で必要となる建築図面の描き方の基本を学習する。製図用具の取り扱い・線の引き方・製図文字の練習・レイアウトの仕方から学ぶ。2級建築士の実技試験を見据えた、平面記号から配置平面図・断面図等、1通りの基本図面の理解を目標とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	2級建築士試験設計製図テキスト			副教材および参考文献		配布プリント及びスライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、課題1 線と文字の練習①	製図道具の使い方・課題について、線の練習(エスキス用紙)
第2回	課題1 線と文字の練習②	図面レイアウトと線種の区別、等間隔線の作図
第3回	課題1 線と文字の練習③	製図文字の書き方、円の描き方、図面修正
第4回	課題2 平面表示記号の練習①	図面レイアウト、下書き線、建具の種類、壁の線
第5回	課題2 平面表示記号の練習②	壁の線、建具記号、階段
第6回	課題2 平面表示記号の練習③	文字、図面修正
第7回	課題3 配置図兼1・2階平面図①	敷地の形状、壁の中心線
第8回	課題3 配置図兼1・2階平面図②	壁線、柱線(下書き)、柱線(本書き)
第9回	課題3 配置図兼1・2階平面図③	開口部スルーライン、壁線(本書き)
第10回	課題3 配置図兼1・2階平面図④	開口部(建具)の作図、玄関廻り、階段、和室の畳
第11回	課題3 配置図兼1・2階平面図⑤	家具、設備機器
第12回	課題3 配置図兼1・2階平面図⑥	床の目地、外構
第13回	課題3 配置図兼1・2階平面図⑦	寸法、通し柱、換気扇、換気口、筋交
第14回	課題3 配置図兼1・2階平面図⑧	植栽、室名などの文字、方位記号、図面修正
第15回	課題4 南・東側立面図①	壁、屋根、開口部線(下書き)
第16回	課題5 南・東側立面図②	開口部線(本書き)、寸法、文字、図面修正

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	課題5 妻・桁方向断面図①	壁の中心線、高さの基準線、屋根の基準線
第18回	課題5 妻・桁方向断面図②	壁・天井・開口部・屋根の下書き(妻側)
第19回	課題5 妻・桁方向断面図③	壁・天井・開口部・屋根の下書き(桁側)両側本書き
第20回	課題5 妻・桁方向断面図④	壁・天井・開口部・屋根の本書き寸法、文字、修正
第21回	課題5 妻・桁方向断面図⑤	断面図の見直し・修正
第22回	課題6 矩計図①	各部の名称、壁の中心線、高さの基準線
第23回	課題6 矩計図②	屋根勾配、柱、床束、小屋束、基礎廻り、軒の出、構造部材
第24回	課題6 矩計図③	各部位の下書き(床、屋根、盛土、窓廻り、外壁等)
第25回	課題6 矩計図④	各部位の仕上げ本書き(サッシ廻り1)
第26回	課題6 矩計図⑤	各部位の仕上げ本書き(サッシ廻り2)
第27回	課題6 矩計図⑥	各部位の仕上げ本書き(床下地、天井下地等)
第28回	課題6 矩計図⑦	軒先・庇・外壁廻り本書き、基礎、ハッチング
第29回	課題6 矩計図⑧	断熱材、仕上げ材引き出し線
第30回	課題6 矩計図⑨	寸法、文字
第31回	課題6 矩計図⑩	寸法、文字
第32回	課題6 矩計図⑪	矩計図の見直し・修正

授 業 計 画

No.1

授業科目	CAD演習		担当教員	生沼 秀樹	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	<p>この科目では、世界シェアNo.1CADソフトであるAutoCADバージョン2018の2D(二次元)製図技術を学びます。 授業では建築CAD検定試験3級の課題に取り組み、試験に合格することで基本操作の習得を目指します。 前半は、先生と一緒に作図計画・作図に関する基本操作をゆっくり学び、後半は各自で計画し描けるようにしつつ、効率的に作図できるようにする。</p>						
評価方法	成績評価	期末試験は行わないが、建築CAD検定試験本番の点数に課題点を加算した値を評価基準値に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	40 %	課題	40 %	他	20 %
教科書	建築CAD検定試験 公式ガイドブック		副教材および参考文献		建築CAD検定試験 問題集、プリント		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、AutoCADの基本操作(1)	オリエンテーション 建築CAD検定試験概要説明 画面説明
第2回	AutoCADの基本操作(2)	オブジェクトの作成・編集・ファイル保存等
第3回	AutoCADの基本操作(3)	基本操作(寸法・文字) 練習問題 ドア作成 提出
第4回	階段平面図(A-99) 計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第5回	階段平面図(A-99)作図	図枠、文字、基点、壁、段板、手すり
第6回	階段平面図(A-99)作図	トリム等まとめ提出 採点
第7回	柱・壁・間仕切壁(C-99) 計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第8回	柱・壁・間仕切壁(C-99)作図	図枠、文字、基点、通り芯、柱、壁
第9回	柱・壁・間仕切壁(C-99)作図	間仕切壁、トリム等まとめ提出 採点
第10回	通り芯・寸法・通り芯記号(3-B3)計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第11回	通り芯・寸法・通り芯記号(3-B3)作図	図枠、文字、基点、通り芯
第12回	通り芯・寸法・通り芯記号(3-B3)作図	記号、寸法、トリム等まとめ提出 採点
第13回	壁と窓(3-D3)計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第14回	壁と窓(3-D3)作図	図枠、文字、基点、通り芯、壁
第15回	壁と窓(3-D3)作図	窓台、サッシ、ガラス、トリム等まとめ提出 採点
第16回	階段平面図(3-A1) 計画、設定、作図	課題解説 各自作図

	講義計画	実施細目
第17回	階段平面図(3-A1) 作図	各自作図
第18回	通り芯・寸法・通り芯記号(3-B1)作図	課題解説、各自作図
第19回	通り芯・寸法・通り芯記号(3-B1)作図	各自作図
第20回	柱・壁・間仕切壁(3-C1)作図	課題解説、各自作図
第21回	柱・壁・間仕切壁(3-C1)作図	各自作図
第22回	壁と窓(3-D1)作図	課題解説、各自作図
第23回	壁と窓(3-D1)作図	各自作図
第24回	階段平面図(3-A2) 作図	テンプレート作成 作図
第25回	通り芯・寸法・通り芯記号(3-B2)作図	テンプレート作成 作図
第26回	柱・壁・間仕切壁(3-C2)作図	テンプレート作成 作図
第27回	壁と窓(3-D2)作図	テンプレート作成 作図
第28回	3-A3、3-C3作図	テンプレートを使用して2課題作成
第29回	建築CAD検定試験3級対策	過去問から2課題
第30回	建築CAD検定試験3級対策	過去問から2課題
第31回	建築CAD検定試験3級対策	過去問から2課題
第32回	建築CAD検定試験3級対策	過去問から2課題

授 業 計 画

No.1

授業科目	コンピューター演習	担当教員	生沼 秀樹	クラス	建築設計科1年
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習
					単位数
					1

授業概要	<p>この科目は、業種を問わず業務に欠かせない、マイクロソフト社のOfficeシリーズの表計算ソフトの基本操作・数式と計算・グラフ・オブジェクト・データベース機能・入出力を習得する。 学習到達目標として、Excel表計算処理技能認定試験3級を受験し、合格することを目指す。</p>					
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。				
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他
教科書	なし	副教材および参考文献		Excel表計算処理技能認定試験問題集 配布資料、模擬問題		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	オリエンテーション・基本操作	オリエンテーション・資格取得について、起動、画面構成・役割、表の作成①
第2回	基本操作	表の作成②(関数、列幅調整、罫線、条件付書式等)
第3回	練習問題1	練習問題1の問題1、2→解説(表の作成、集計)、確認
第4回	練習問題1	練習問題1の問題3、4、5→解説(グラフの作成、印刷設定)、確認
第5回	練習問題2	練習問題2→解説(ワードアート、構成比、折れ線グラフ)、確認
第6回	練習問題3	練習問題3→解説(テキストボックス、RANK.EQ)、確認
第7回	模擬問題1	模擬問題1→採点、解説(比率、円グラフ)、確認
第8回	模擬問題2	模擬問題2→採点、解説(ROUNDUP、面グラフ)、確認
第9回	模擬問題3	模擬問題3→採点、解説(割合、グラフの編集)、確認
第10回	模擬問題4	模擬問題4→採点、解説(平行四辺形図計の編集、ROUNDDOWN)、確認
第11回	模擬問題5	模擬問題5→採点、解説(IF、積み上げ横棒グラフ)、確認
第12回	模擬問題6	模擬問題6→採点、解説(塗りつぶしレーダーグラフ)、確認
第13回	検定試験	説明、Excel表計算処理技能認定試験、提出
第14回	他ソフト紹介	Word.PowerPoint,AutoCAD
第15回	他ソフト紹介	Word.PowerPoint,AutoCAD
第16回	他ソフト紹介	日本語ワープロ検定試験3級模擬問題、速度・文書作成2回ずつ

授 業 計 画

No.1

授業科目	国際コミュニケーション		担当教員	竹井 透	クラス	1年全クラス(選択)	
期別	前期	履修コマ数	※ コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

※7月～9月

授業概要	この科目の中心となる「マレーシア・ミニ留学」をグローバル人材育成の一環として実施する。 過去5年間にわたる本校マレーシア ミニ留学を通じて蓄積した経験を生かし、1年生を対象に、前期の選択科目として位置づける。マレーシア留学の前後に事前学習・事後学習を実施する。 ただし受講生については、費用の一部にマレーシア奨学金制度を利用するため、選抜試験を実施し、合格者のみを対象とする。						
評価方法	成績評価	マレーシア研修でグループワークへの取り組み姿勢、事前学習での意欲度、事後学習での課題の発表等の総合成績で評価する。					
	評価割合	試験	0 %	課題	50 %	他	50 %
教科書	マレーシア・ガイドブック (マレーシア政府観光局発行)			副教材および 参考文献	プリント(英会話他)		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	事前学習①	オリエンテーション・基本英会話(学校)
第2回	事前学習②	マレーシアの歴史と文化・基本英会話(学校)
第3回	事前学習③	グループワーク 事前準備・基本英会話(学校)
第4回	マレーシア研修	グループワーク(inクアラルンプール)
第5回	マレーシア研修	グループワーク
第6回	マレーシア研修	グループワーク
第7回	マレーシア研修	グループワーク
第8回	マレーシア研修	カレッジ交流 ※UTAR大学
第9回	マレーシア研修	カレッジ交流
第10回	マレーシア研修	カレッジ交流
第11回	マレーシア研修	グループワーク
第12回	マレーシア研修	グループワーク
第13回	マレーシア研修	グループワーク
第14回	マレーシア研修	グループワーク
第15回	マレーシア研修	グループワーク
第16回	マレーシア研修	グループワーク

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	マレーシア研修	グループワーク
第18回	マレーシア研修	グループワーク
第19回	マレーシア研修	グループワーク
第20回	マレーシア研修	グループワーク
第21回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ ※マラッカ(2泊3日)
第22回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第23回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第24回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第25回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第26回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第27回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第28回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第29回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ 閉村式
第30回	事後学習①	グループワーク まとめ(学校)
第31回	事後学習②	グループワーク まとめ(学校)
第32回	事後学習③	グループワーク 発表会(学校)